

ニュースリリース

報道関係各位

2022年1月28日

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
株式会社サンリオ

いわさきちひろ作品 90 点の商品化をサンリオがプロデュース
ロイヤリティの一部を子どもたちを支援する活動へ寄付



母の日 (1972年)



猫と少女 (1964年)



チューリップのなかのあかちゃん (1971年)

©CHIHIRO ART MUSEUM

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団（東京都練馬区、理事長：山田洋次、以下ちひろ美術館）と株式会社サンリオ（本社：東京都品川区、社長：辻 朋邦、以下サンリオ）は、「子どもの幸せと平和」をテーマにして描き続けた日本を代表する画家・いわさきちひろの作品をライセンス許諾し、サンリオのプロデュースによる商品化を開始することが決定いたしました。商品化の際のロイヤリティの一部を寄付することで、継続的に子どもたちを支援する取り組みです。

サンリオが今回使用許諾を得たのは、ちひろ美術館所蔵の9,400点を超える作品の中から選び抜いた90点です。見るだけで心が温かく幸せな気持ちになるような作品を中心に、水彩画だけではなく線画の作品も多く選定しています。人々の生活の中で身近に感じていただけるように、幅広いカテゴリー（生活雑貨・服飾雑貨・インテリア等）の商品化を募っていきます。ライセンス募集は2022年3月1日より開始いたします。

◆背景

いわさきちひろ（1918年12月15日～1974年8月8日）は、にじみやぼかしといった水彩の特徴的な技法を駆使し、主に子どものための絵本の分野で活躍した日本を代表する画家です。青春時代に戦争を体験し、その作品には「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」という思いがこめられています。サンリオも約60年前の創業時より変わらない企業理念「みんななかよく」のもと、現在も「One World, Connecting Smiles.」～一人でも多くの人を笑顔にし、世界中に幸せの輪を広げていく～ことをビジョンに掲げている会社です。

お互いの通底する理念の下、今回、サンリオがいわさきちひろ作品の使用許諾を受け、ライセンスに対して商品化許諾をしていくことに合意いたしました。今回の90作品は、代表的な水彩画の作品も多いのですが、いわさきちひろの神髄は線画にあると感じ、線画の作品も約30点と多く選定しています。

◆寄付先

ちひろ美術館（公益財団法人いわさきちひろ記念事業団）とサンリオより、商品化の際のロイヤリティの一部を下記団体に寄付いたします。

- ・公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

HP：<https://www.savechildren.or.jp/>

- ・認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ

HP：<https://musubie.org/about/>

◆プロフィール いわさきちひろ (1918～1974)

福井県武生（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1946年日本共産党に入党。1950年松本善明と結婚。同年、紙芝居『お母さんの話』を出版、文部大臣賞受賞。1951年長男猛を出産。翌年、下石神井（東京・練馬）に自宅兼アトリエを建てる。1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』（至光社）でポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。1974年肝ガンのため死去。享年55歳。現存する作品は約9600点。その他の代表作に『おふろでちゃぷちゃぷ』（童心社）、『あめのひのおるすばん』（至光社）、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）などがある。1977年、いわさきちひろ絵本美術館（現・ちひろ美術館・東京）開館、1997年、安曇野ちひろ美術館開館。



1973年4月自宅にて

◆いわさきちひろ作品例



あかちゃんのくるひ
『あかちゃんのくるひ』（1969年）



花の精（1970年頃）



わらびを持つ少女
『あかまんまとうげ』（1972年）



アヒルとクマと赤ちゃん（1971年）



ヤシの木にのぼる少女
『母さんはおるす』（1972年）



左手をついた後ろ姿のあかちゃん
（1971年）



買い物袋を抱える男の子（1971年）



本を読む子ども（1973年）

※キャプションは、タイトル、制作年。『』は、出典となる絵本のタイトルです。

＜本件に関する報道関係問合せ先＞

株式会社サンリオ 社長室 広報課 TEL (03) 3779-8110 e-mail:sanriopr@sanrio.co.jp